

救急外来について

いつでも身近にある救急病院

当院は、救急告示指定病院及び病院群輪番制病院指定病院として、「救急医療」に積極的に取り組んでおります。救急医療は地域の安心を支える重要な柱の一つです。地域の方に頼りにされる病院として24時間365日体制で対応しております。

長崎県からは「脳卒中支援病院」として認定されており、脳卒中の専門的な救急医療も行なっております（日本脳卒中学会からは一次脳卒中センターとして認定）。夜間・休日の輪番日は、外科1名・内科1名の医師と専任の看護師が勤務し、放射線技師や検査技師の当直体制を充実させ、緊急手術も対応しております。「質の高い・安全な医療を提供する」ため、スタッフ一同が日夜努力を重ねております。

2022年救急車搬入件数 **2444** 件



無料低額診療事業について

経済的な理由によって、必要な医療を受ける機会が制限されることがないように医療費の免除を行う制度です。

このようなことでお困りではないでしょうか？

- 体調が悪いので受診したいが、医療費の支払いが心配
- 医療費の支払いが大きく、生活が困難
- 病気や失業等により収入が一時的に減少し、医療費の支払いが困難

※対象となる方は面談・所得に関する審査が必要になります。



お問い合わせ

医療福祉相談室（病院1階受付そば）

電話（代）095-864-0085

時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00



社会福祉法人十善会
十善会病院

社会福祉法人十善会 十善会病院

〒852-8012 長崎県長崎市淵町20-5

TEL.095-864-0085 FAX.095-801-2715 <https://juzenkai-hospital.or.jp/>



十善会
広報誌

じゅうぜん通信

2023
特別号

発行日：2023年6月
発行：社会福祉法人十善会

十善会病院

〒852-8012 長崎県長崎市淵町20-5
<https://juzenkai-hospital.or.jp/>

TEL.095-864-0085

社会福祉法人十善会 十善会病院広報誌

じゅうぜん通信

2023年
特別号

TAKE FREE

Start! 十善会新体制スタート

理事長ご挨拶 / 新体制就任のご挨拶 / 医局紹介 / 部署紹介



理事長就任のご挨拶

社会福祉法人十善会・理事長

りゅう のぶとし
笠 伸年



令和5年6月に社会福祉法人十善会の理事長を拝命いたしました。明治8年6月に高木文章が開業した十善寺病院に端を発し現在に至るまで凡そ150年、長崎において地域医療の中心的役割を担い、前任の小川理事長を含め、数多の先輩方の日々の努力や苦勞が連綿と積み重なり築き上げられた当院の長い歴史に思いを馳せると、ともすればその重圧に押しつぶされそうになりながらも身が引き締まる思いです。

当院は令和3年6月に籠町から淵町に移転しました。その当時は新病院設計の協議から、建設業者や引越し業者の選定、実際の移転計画に新病院での診療業務運用計画等々、やるべき事が多く奔走したのを思い出します。世間は新型コロナの波状攻撃に慄き、当院でも院内クラスターを経験しました。そんな中でも無事に移転が完了し、様々な逆境にも負けず職員の皆さんの頑張りと近隣の先生方のご協力、地域住民の皆さんの思いに助けられ何とかここまで

やって来ました。気が付けばもう新築移転から2年がたちました。

十善会の理念に地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献するとあります。当院は昭和33年に無料低額診療を柱とする社会福祉法人として認可されました。開業時より貧富の区別なく地域の人々のために医療を行ってきた当院の歴史、実績があって認められたものです。経済的理由によって必要な医療を受ける機会が制限されることのないように、今後も社会福祉事業を継続していかなければなりません。

ここで改めて自己紹介をさせていただきます。私は昭和35年、久留米の地に生まれました。県立高校を卒業し1年間の浪人生活の後に長崎大学医学部に入学しました。頭脳明晰な天才肌では無く、コツコツ勉強する努力家の才も持たない私が6年間で卒業できたのは、周囲の優秀な友人と幸運に恵まれたことによるものでした。

当時この科目を落とせば留年確実

であった『神経解剖』の試験の開始直前に同級生が教えてくれたヤマが当たったり、『内科診断学』の再試験の前夜、ボロアパートの自室に一人佇み、どうしても勉強する気が起こらず「お母さんごめん」と呟いて留年覚悟で全く勉強せずに翌日の再試験に臨んだところ、たまたま知っていた内容が試験問題に出ていたり、といった具合でした。もちろん客観的に見れば不運な出来事にも遭遇しているのですが、私自身が覚えておらず気にもしていなければ無かったも同然です。そういった前向き指向、楽観主義も私の特徴の一つかも知れません。

そんな幸運にも恵まれながら医者になり、深い考えもなく脳外科医になった私が平成5年8月、十善会病院に赴任して大いに感銘を受けました。当時は公的病院が救急医療にさほど注力しておらず、長崎市内に脳神経外科救急を受け入れる病院は当院のみといっても過言ではない状況で、日々たくさんの急患が運ばれて

来ました。私は多忙さに身を任せて働いていただけですが、看護師をはじめとするスタッフは、特にベテランであれば尚のこと、どんなに忙しくてもどんな患者さんであっても、笑顔で接し時には叱咤し、騒々しく賑やかに業務をこなしていました。これが地域の人々に密着した医療を旨に開業した高木文章から始まり、長崎市内で初めての救急室を設置した、長崎地区における救急医療の中核を担ってきた当院の理念でもある「救急から在宅まで」の精神なのだろうと実感しました。

働き方改革が提唱され来年からは医療の世界にも厳重な勤怠管理が求められます。安全で質の高い医療を確保することはもちろん、働く職員も満足できる病院に変えていく必要があります。当院でも宿日直許可を取得し勤怠管理に注視し取り組んでいま

す。大きく変わる社会構造、医療環境の中で当院は存続を図らなければなりません。職員の健康を守るのほかに立つ者の責任だと重く受け止めています。

病院経営、病院存続にはお金、財務の視点も重要です。この厳しい社会情勢の中では「何とかなるやろ」の楽観主義では立ち行かなくなる危険性があることを認識しなければなりません。生来の楽観主義的性格を根本から変えることは難しいのかも知れませんが、そこを補う優秀なスタッフと協力して頑張りたいと思います。

今の科学技術の進歩、最先端医療には目を見張るものがありますがそれでも尚、完治させることのできない病気は存在し、例えば脳卒中で起こった片麻痺や失語などの重い後遺症を完全に元に戻すことは未だ不可

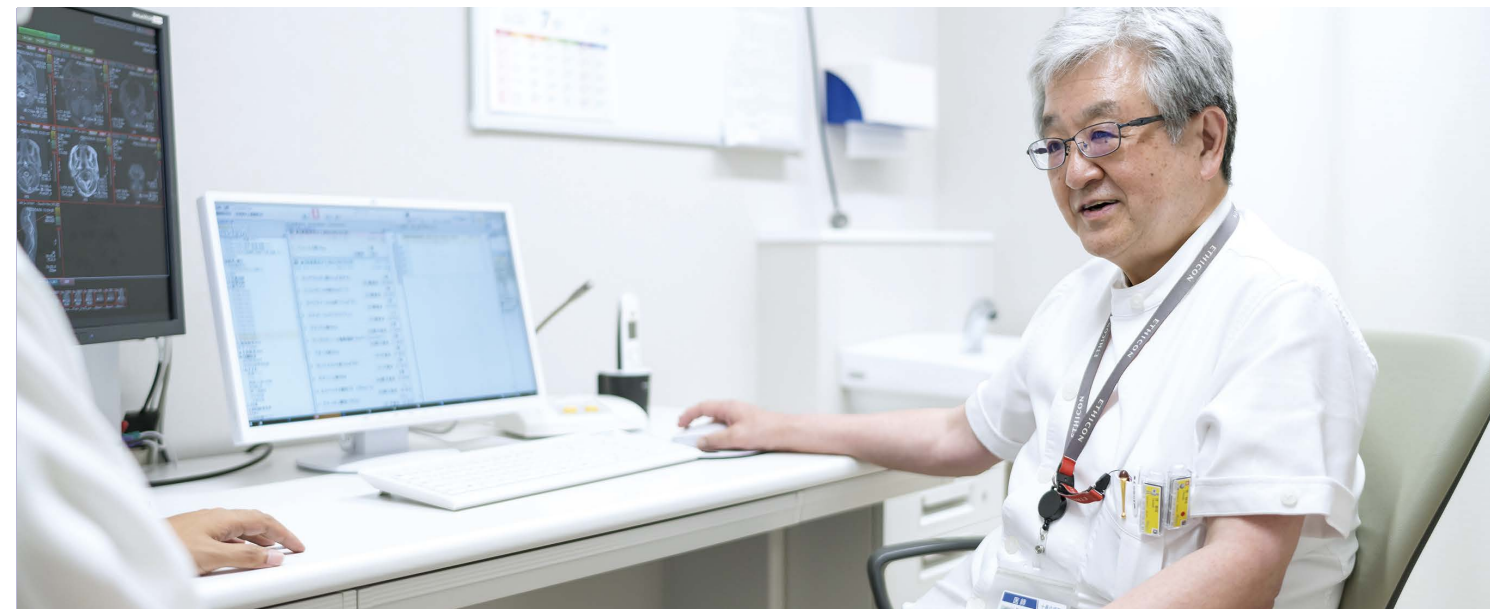
能です。従って医療の現場では患者さんやそのご家族に寄り添う気持ち、デジタル技術やAIではカバーできない人間味、暖かみというものが絶対に必要であろうと考えています。

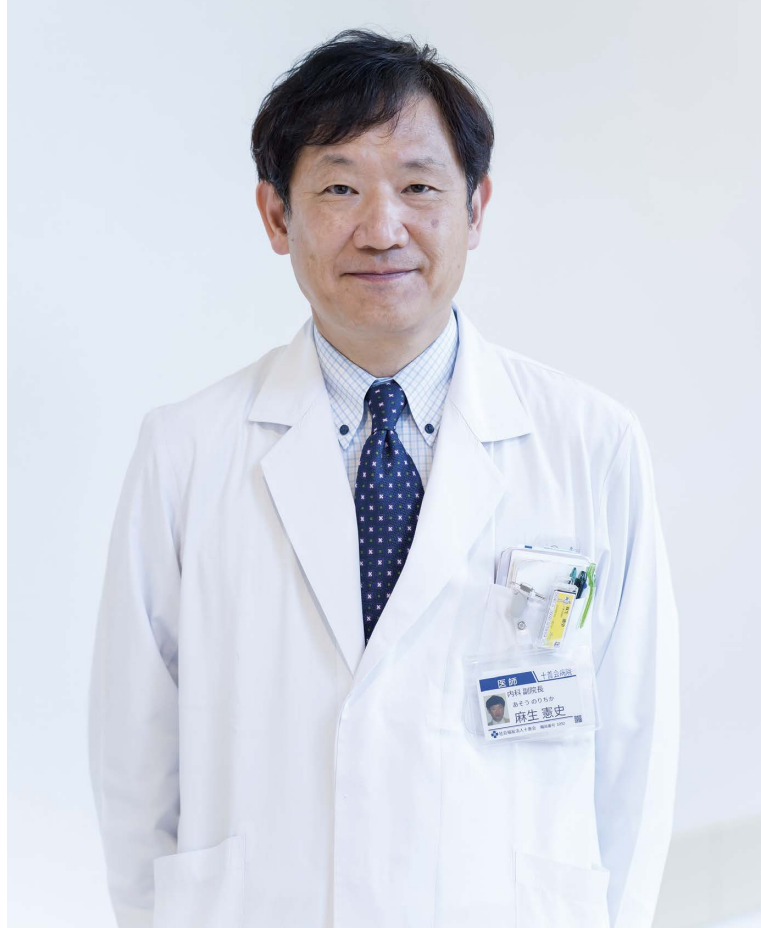
今、私が考える理想の十善会病院とは、公的大病院の救命救急センターではカバーできない救急医療を補完する病院、十善会の理念を持ったスタッフが明るく健康的に働くことができる病院、人間味のある暖かい医療を提供し、長崎地区の皆さんに愛され必要不可欠と思っていたける、そんな病院です。

浅学非才の身ではありますが理想の病院に少しでも近づけるよう、スタッフと力を合わせ精一杯努力する所存です。これからも皆様方のご指導ご鞭撻、叱咤激励を何卒宜しくお願い申し上げます。

十善会病院理念

社会福祉法人病院として、地域に密着した医療を行ってきた歴史を守り「救急から在宅まで」を目標に、患者さんが満足し、職員も満足する病院づくりを実現することにより地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献する。





令和2年1月15日に日本国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから4年目に入った今年、厚生労働省の審議会の意見を踏まえ令和5年5月8日から感染症法上の位置づけを5類に移行し、感染対策はそれまでの「法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組み」から「個人の選択を尊重し、国民の皆様の自主的な取り組みをベースとしたもの」に変更されました。しかしながら、新型コロナウイルスがなくなったわけではなく、医療機関としては今後も感染対策を怠るわけにはいきません。

そんな折、わたくし麻生 憲史が令和5年6月に社会福祉法人十善会 十善会病院の院長を拝命いたしました。この場を借りまして、皆様にご挨拶申し上げます。当院の歴史は1875年（明治8年）6月に、福岡柳川藩の御典医だった高木文章が「十善寺病院」を長崎村十善寺郷（現長崎市中新町）に開設した時点にさかのぼります。

以降、当地において地域医療の中核的な役割を担い続けておりましたが、建物の老朽化により令和3年6月1日に淵町に新築移転しました。

新病院では病棟編成を急性期病棟94床、地域包括病棟94床に改編し急性期診療においては最新の機器を導入し、また各部門の連携を強化し速やかで質の高い医療を目指しております。一方、地域包括病棟を拡充したことで在宅復帰をより強力に支援できる体制が整ったとも考えております。

移転後に新型コロナのクラスターも発生し、病院経営にも影響しましたが職員一丸となり難局を乗り越えまして順調な滑り出しとなりました。しかしながら医師偏在、高齢化、地方人口の減少、求められる医療の多様化、働き方改革への対応、医療費削減、医療スタッフのストレス軽減など医療業界を取り巻く環境は決して安泰ではありません。それゆえ、当院の理念である「救急から在宅まで」を目標に、患者さんが満足し、

職員も満足する病院づくりを実現することにより地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献する、を実現するために多職種がそれぞれの立場を尊重し合いながら連携するチーム医療を目指します。

患者さんやご家族の皆さまからの信頼を得ることは勿論のこと、職員の方々が安心して働ける充実した職場を目指します。各々が相互の信頼関係のもと忌憚のない意見を出し合い、個々の力を存分に発揮出来るような環境を作ることが私の役割であると考えています。また、地域の急性期病院としての役割を果たすために、近隣の諸先生方との連携を深め、緊密な病診連携を構築する必要があると考えております。

もとより微力ではありますが、尊敬する先輩の教えである「医師である前に紳士たれ」の言葉を胸に最善を尽くしてこの重責を全うする所存でございますので、前任者同様格別のご指導ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

院長就任のご挨拶

社会福祉法人十善会 理事
十善会病院 院長

あそう のりか
麻生 憲史

就任のご挨拶

社会福祉法人十善会 理事
十善会病院 副院長

かんだ むねたけ
神田 宗武

この度令和5年6月をもちまして十善会病院の副院長を拝命いたしました。平成27年から循環器内科部長として赴任し、病院の伝統・評判に傷がつくことがないように頑張っ

てまいりました。これまで臨床しかやってこなかった自分が、副院長の責務を全うできるか不安ではありますが、全力で取り組んでまいります。

5月から新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ「5類」に移行しましたが、少子高齢化による人材確保、働き方改革の問題に加え、インフレによる物価高、光熱費の高騰により医療を取り囲む環境の厳しさはさらに増えています。さらに国の進める地域医療構想にも対応していかなければなりません。

社会福祉法人病院として、「救急から在宅まで」を目標に地域に密着した医療を行うため、新体制の下尽力させていただきます。近隣医療機関の先生方の協力を得ながら、職員一丸となり最善の医療をご提供していく所存ですので、宜しく申し上げます。



社会福祉法人十善会 理事
在宅総合支援センター長

つちはし よしこ
土橋 佳子

深堀医師、そして馬渡医師より引き継ぐ形で、令和5年6月より在宅総合支援センター長を拝命いたしました内科の土橋です。2度目の十善会病院勤務も11年を超えました。本センターには訪問看護ステーションが属しており、日頃より訪問診療の先生方や、介護を支援して下さる方々大変お世話になっております。

病気や障害を持った方がどこでどのように療養したいか、人生の最期をどこで迎えた

いは患者さんごとに違い、家庭の事情、また病状によって変化します。在宅での療養をご希望される患者さん

とご家族、訪問看護ステーションスタッフの笑顔を目標に、スムーズな連携が図れるよう努力していく所存です。皆様のお知恵を拝借しながら私自身は1からのスタートです。どうかご指導のほどよろしく願いいたします。

社会福祉法人十善会 理事
十善会病院 看護部長

たぐり ひろこ
田栗 寛子

令和5年4月をもちまして看護部長に就任いたしました。前任の看護部長から受け継いだ看護部を、さらに発展できるよう職務に励んでまいります。

看護部では、病院理念に基づいて、「救急から在宅まで全ての患者さんの看護過程を展開し、患者さん・職員共に満足する看護を提供する～患者さん・ご家族様一人ひとりの心に寄り添った看護～」を理念に掲げております。患者さんの入退院前後の生活を見据え、住み慣れた地域でその方らしく生活が営めるよう、多職種で協働してチーム医療・支援に取り組んでおります。また、患者さんのニーズに応じて、一人ひとりが根拠を基に判断し、看護実践ができる自律した看護師の育成を目指しております。職員がやりがいを持って働き続けられる職場環境を整えることも重要でございます。業務の効率化を図り、看護職の専門性が発揮できるための体制整備を行ってまいります。地域の皆さま、職員、すべての方に選ばれる病院となるよう努めてまいります。



令和5年度 医局のご紹介

- 01 専門領域
- 02 今年度の抱負

令和5年度の各診療担当医師のご紹介です

泌尿器科

小川 繁晴
OGAWA SHIGEHARU

- 01 尿路全般
- 02 腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌の治療薬の変遷は著しく、適切な治療を提供できるようにします。

脳神経外科

笠 伸年
RYU NOBUTOSHI

- 01 脳血管障害、脳腫瘍、機能的脳神経外科 など
- 02 長崎地区の皆様にとって必要不可欠な病院であり続けるために、精一杯頑張ります。

脳神経外科

清水 正
SHIMIZU TADASHI

- 01 脳血管障害を中心に脳外科全般
- 02 後ろに誰も乗せてないけれど、ブレーキをいっぱい握りしめて、ゆっくりと下っていきたいと思っています。

外科

池松 禎人
IKEMATSU YOSHITO

- 01 消化器外科
- 02 地域・患者さんに寄り添った診療をおこなってまいります。

外科

入江 真
IRIE MAKOTO

- 01 一般外科（当院では特に肛門疾患）、乳癌検診
- 02 昭和の医者ですが、体力・気力が許す限り仕事をしようと思えます。

呼吸器内科

麻生 憲史
ASOH NORICHIKA

- 01 呼吸器、感染症
- 02 患者さんやご家族様からの信頼を得ることは勿論、近隣の諸先生方と緊密な病診連携を構築していきます。

呼吸器内科

土橋 佳子
TSUCHIHASHI YOSHIKO

- 01 呼吸器、感染症
- 02 当院に勤務し始めて10年経過。息切れしない診療を続けたいと思います。

呼吸器内科

松木 啓
MATSUKI KEI

- 01 呼吸器、感染症
- 02 丁寧かつ素早い診療を心がけています。

呼吸器内科

菊地 太郎
KIKUCHI TARO

- 01 呼吸器内科、一般内科、感染症内科
- 02 新しい環境を楽しみながら、地域の皆さんが安心して受診できるよう日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

一般内科

喜多 由子
KITA YOSHIKO

- 01 一般内科（消化器）
- 02 地域の患者さん及び先生方のお役に立てていただければ幸いです。

消化器内科

馬渡 文弘
MAWATARI FUMIHIRO

- 01 消化器疾患一般
- 02 開業の先生方と連携し、地域医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。

消化器内科

濱崎 俊輔
HAMASAKI SHUNSUKE

- 01 消化器
- 02 職場でのコミュニケーションを大切にし、チームワークを発揮することでより良い医療を提供するため努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科

神田 宗武
KANDA MUNETAKE

- 01 循環器疾患全般
- 02 患者さん一人一人に応じた最善の医療を提供できるように、努めてまいります。

整形外科

杉山 正泰
SUGIYAMA MASAYASU

- 01 一般整形外科
- 02 外来診療を火・木・金と行っています。患者さんの利便性を優先した診療を心がけています。

整形外科

辻本 律
TSUJIMOTO RITSU

- 01 手外科（肘から先）
- 02 再診予約の患者さんを優先に診察しています。新患の予約はとっていません（2回目以降は予約可能です）。患者さんが多い日には待ち時間が長くなります。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

形成外科

近藤 加代子
KONDO KAYOKO

- 01 創傷、熱傷、褥瘡
- 02 傷を早くきれいに治すことを常に心掛けて治療を行っています。どうぞお気軽にご相談ください。

放射線科

磨田 勝範
TOGITA KATSUNORI

- 01 放射線診断全般
- 02 患者さんが満足のできる診療を受けられるように、画像診断を的確におこなってまいります。

麻酔科

辻田 俊也
TSUJITA TOSHIYA

- 01 麻酔管理
- 02 火曜日から金曜日まで勤務します。緊急手術もできるだけ対応します。安全な管理と除痛に寄与します。

部署紹介

【看護部】 ● 田栗看護部長 ● 野口副看護部長



3 階病棟

【脳外科・外科・整形外科・形成外科病棟】

● 長濱師長

3 階病棟は外科系の混合病棟として、やりがいのある病棟です。4 月よりスタッフが増員され、フレッシュな病棟になりました。患者さんに笑顔で看護提供することを目標としています。



4 階病棟

【内科・泌尿器科病棟】

● 田浦師長

4 階病棟は、内科、泌尿器科病棟です。様々な疾患、幅広い年齢層の患者さんが入院されています。緊急入院にも対応し、スタッフ全員で患者さんに寄り添った看護が提供できるよう取り組んでいます。



5 階病棟

【地域包括ケア病棟】

● 小林師長

5 階病棟は地域包括ケア病棟です。自宅や施設で日常生活を送れるよう退院支援を行っています。今年は業務改善を行い、職員が働きやすい病棟を作り、優しさと笑顔で患者さんへ寄り添う看護が出来るよう目指します。



6 階病棟

【地域包括ケア病棟】

● 野口師長（副看護部長兼務）

地域包括ケア病棟である 6 階病棟は、最上階のため見晴らしがよく、多くの患者さんがロビーで過ごされています。リハビリや退院支援、レスパイト入院、緩和ケア認定看護師・終末期ケア専門士の資格を持つ看護師が在籍し、終末期の患者さんの看護・ご家族のケアを行っています。



手術部

● 堤師長

手術室では特に術後訪問に力をいれており、患者さんの術後の経過を知り、実際の声を聴かせて頂くことで、今後の手術看護に活かせるよう努めて行きたいと思っています。



外 来

● 山口師長

外来では、現在 25 名のスタッフで、一般外来、内視鏡、救急外来業務を行っています。緊急入院・緊急内視鏡等に対応する為、全スタッフが協力して頑張っています。患者さんの目線に立ち、当院理念である救急から在宅までをモットーに行っていきます。

部署紹介

薬剤部



● 麻生部長（病院長兼務） ● 原課長

薬剤部では処方箋に基づく調剤以外にも持参薬鑑別、病棟薬剤業務、抗がん薬の混注等様々な業務を行っています。薬の安全性を確保しつつ効果的に使用できるよう医師とはもちろん看護師や他のコメディカルと連携を取りながら日々業務に従事しております。

リハビリテーション科



● 杉山部長 ● 小泉課長

当科は、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・助手の 32 名からなる平均年齢が若い部署です。今年度の療法士の拡充に伴い、入院患者さんの急性期や在宅復帰への十分な支援体制を目指して鋭意努力してまいります。

検査部



● 土橋部長（センター長兼務） ● 松林課長

当検査室では大きく生化学、生理、細菌、病理の部門に分かれ 10 名の検査技師で業務を行っています。早期発見・早期治療につながる検査データの提供を目指し各専門分野での資格取得も積極的に取り組んでいます。

放射線科



● 磨田部長 ● 山田課長

放射線科では感染対策を引き続き徹底して撮影を行い、検査をされるすべての患者さんが質の高い検査を安心して受けていただけるように、これからも日々精進してまいります。

地域連携室



● 神田室長(副院長兼務) ● 藤崎課長

連携室では、できる限り患者さんが元の生活に戻れるよう、地域の医療機関や介護施設等と連携を図りながら入退院支援を行っています。救急から在宅まで、患者さんに寄り添いながらスムーズな支援を行っていききたいと思います。

栄養部



● 田栗部長(看護部長兼務) ● 大下課長

チーム医療の一員として、患者さん中心の栄養食事サービスを実践し、治療に貢献するよう努めています。今年度より徹底した衛生管理のもとにつくられるクックチル方式にてお食事を提供しています。

健康管理センター



● 入江センター長 ● 松本課長

健康管理センターは、外来棟の2階にあり、人間ドック、企業健診、がん検診などを行っています。専任の保健師や看護師を中心に、受診される皆様の健康維持、管理のお手伝いをいたします。

医療安全管理室



● 神田室長(副院長兼務) ● 宮本課長

患者さんの安全を最優先に考え、質の高い医療を提供することを目的とした院内全体の安全管理を担う部門です。医療事故の予防ならびに再発防止対策に積極的に取り組んでいます。

在宅総合支援センター



● 土橋センター長 ● 梶原課長

看護師3名、作業療法士1名、事務1名が在籍しています。利用者さまとそのご家族が、住み慣れた地域・ご自宅で自分らしく穏やかに暮らしていけるよう、共に考えサポートいたします。まずは気軽にご相談ください。

事務管理部 総務課



● 山崎部長 ● 中村課長

経理業務、労務管理、施設設備の点検・修繕、リネン業務、守衛業務など幅広い業務を担当しております。患者さんと直接かかわることは少ない部署ですが、職員が安心して業務に集中し患者さんにより良い医療を提供できる環境づくりに努めてまいります。

事務管理部 医事課



● 山崎部長 ● 松田課長

病院窓口の顔として、迅速かつ丁寧で気持ちの良い対応を心がけています。職員のスキルアップを図ることにより良質な保険請求を行い、患者さん満足度の向上を目指します。

情報管理室



● 松田室長(医事課長兼務)

医療情報システムの改善や機器の保守管理を行いながら、情報を共有し業務の幅を広げること、病院スタッフのスムーズな業務遂行をサポートできるように努めています。また、患者さんの個人情報保護にも取り組んでいます。